

報道 ニッポン

Monthly Graphic Journal : Houdou Nippon

issue 227 / Feb. 2008

2

特別企画

再生日本

- 企業家たちの横顔に迫る ● 医療と福祉 ● Specialistに学べ！
- ニッポンを支える技と心～VIP・ザ・職人
- いい店 いい人 いい出会い

時事特集

世界が求める本当の学力とは



時代を読む

「陸」と「空」の包括提携

報道特集

流通戦国時代の到来

「環境問題の改善を目指していく」

「溢れんばかりの熱意を持って

各界のキーパーソンたち——

Key Person



(株)伸光テクノ 代表取締役
木村 護

社内の人からも「何が何でもやり遂げるといふエネルギーに満ち溢れている」と言われるほど、情熱的な精神と行動力を兼ね備えている『伸光テクノ』の木村社長。環境問題は今や全世界を巻き込んだ問題ではあるが、様々な利害や国ごとの思惑などあってあまり改善が進んでいないのが現状である。そんな中、社長は「世界を変えていく」ことを目標に邁進し、様々な要因からなる環境問題を抜本的に解決へと導けるような技術を開発。現在は溢れんばかりの熱意で世界に広めるべく力を尽くしている。社長の情熱が地球環境を飛躍的に改善する日が来るのが待ち遠しくてたまらない。

(対談記事は92～93頁に掲載)

「世界の環境問題を解決に導くべく 独自の技術を開発し続ける」

SPECIAL INTERVIEWS

代表取締役

木村 護

【木村社長の足跡】

愛知県一宮市出身。学業修了後は父親が創業した繊維機械メーカーに入社するも、繊維業界の衰退と環境問題への興味から方向転換を決意し、環境機器メーカーとして再スタートを切った。現在は環境問題の改善に向けて、独自に開発した様々な技術を広める活動に力を注いでいる。



■環境問題の改善に向けて、様々な装置やシステムの製造販売を行っている『伸光テクノ』。自社の技術によって地球環境を変えていくという目標に向かって世界各国を飛び回っている木村社長と吉川教授に、本日は羽田恵理香さんがお話を伺った。

株式会社 伸光テクノ

愛知県一宮市大和町馬引字東中境 38 の 1
TEL 0586-45-8235 FAX 0586-46-5116
E-mail: info@shinko-mfg.co.jp
URL: http://www.shinko-mfg.co.jp

羽田 まずは社長の歩みから伺います。
木村 学業修了後は父が営んでいた繊維機械関係の会社を手伝い、その後、別会社を設立して事業を引き継いだのですが、次第に繊維産業が衰退したことと、当時注目され始めていた環境事業に興味を持ったことで業務の転換を

決意しました。そして、これまでに繊維業界で培った技術を活かし、環境機器メーカーとして新たなスタートを切ったのです。その後、吉川教授をはじめとする様々な方の協力を仰ぎながら現在に至ります。

羽田 では、現在の業務内容をお聞かせ下さい。

木村 廃プラスチック油化還元装置や廃油改質装置、廃タイヤ乾留油化システム、高温高圧水熱処理装置をはじめとする、様々な環境関連機器の製造販売を行っています。納入実績としては、国内外の環境関連企業などに製品を納めております。



羽田 恵理香

地球環境改善に向けて、エネルギーに様々な取り組みをされている木村社長と吉川教授。対談中に紹介して頂いた様々な技術は本当に素晴らしいと思います。「伸光テクノ」さんの技術で地球環境が改善される日が来るのがとても楽しみです。

教授・工学博士
吉川 邦夫

「世界を変えていく一助になりたいですね」



「地球に感謝する心を持ち続け
これからも環境問題に取り組んでいきます」

羽田 では、御社ならではの特徴をお聞かせ下さい。

吉川 廃プラスチックを溶かした液体を熱するとガスが発生するのですが、そのガスを冷やして良質な油へと変えられる技術を持っているところは、当社ならではの特徴でしょうね。他にも一般ゴミはもちろん、医療産廃物などの危険なゴミを石炭のような燃料に変えることが出来る技術も備えているのですよ。これらの技術が広まれば、大いに地球環境が改善されていくと思います。これからの世の中に求められている「燃やさない・埋めない」という、新しい処理法実現の一助となれる技術だと確信していますよ。

羽田 画期的な技術を持っておられるのですね！

木村 まだ改善の余地はたくさんありますが、人間が生活する中でどうしても出るゴミからエネルギーが作り出せれば、必ず広まっていくと思います。それにゴミから石炭のようなエネルギーが生み出せる技術が広まれば、これからはこの業界も製造業界の仲間入りを果たせませうし、業界の地位向上にもつながることでしょう。さらに技術開発が進めば将来的には全てのゴミを燃料化し、その燃料を使って発電を行うといったことも可能になってくると思いますよ。

羽田 夢のようなお話ですね。ところで、社長はどういった思いで事業を展開しておられるのですか？

木村 “地球に感謝する心”を持ち、廃棄物の適正処理と再資源化をより効果的に実現したいという思いです。そして、資源の無駄遣いや不法投棄がなくなること信じ、日々の仕事に全力で取り組んでおります。

羽田 やりがいも大きいでしょうね。

木村 ええ。まだまだ力不足ですが、地球環境改善の役に立てていると思うと非常にやりがいを感じますね。いつも吉川教授たちと話しをしているときに、「この仕事に携わることができて幸せだ」と語り合っているぐらいですから。

羽田 社長からはこのお仕事に対する情熱を感じますし、楽しんでお仕事をされているのが窺えます。では、従業員の方々には普段どういったことをおっしゃっているのですか？

木村 「自分たちが色々なアイデアを探して実行するように」と言っています。待っているだけでは環境問題は解決しませんし、私の考えだけでは限界がありません。従業員一人ひとりが様々な考えを持

ち、それを追求していくことが必要だと思っています。そのアイデアの一つ一つが世界を動かす可能性を秘めているわけですからね。

羽田 それでは最後になりますが、お二人それぞれから将来に向けての抱負をお聞かせ下さい。

吉川 テクノロジーが作り出した地球環境に悪影響を及ぼすゴミは、テクノロジーで解決していきたいと思っています。そのためにもさらに技術開発を進めるなど独自の取り組みを続けていき、美しい地球環境を作り出すことができれば良いですね。

木村 私には「世界を変えていく」という大きな目標があります。吉川教授をはじめとする多くの人の力を借りながらではありますが、私が生きている間に皆さんの生活がより良いものへと変わるよう、これからも全力で取り組んでいきたいですね。

羽田 本日はありがとうございました。
(2007年11月取材)

頑 張 れ 二 ツ 採 ツ

「廃棄物ゼロの社会を目指して」

▼廃棄物ゼロの社会を目指して、次世代に残せるシステム(NEXT GENERATION SYSTEM)の構築により、世界の環境問題を解決に導く存在を目指して邁進している「伸光テクノ」。京都議定書でCO₂の削減目標が先進国で交わされたように、環境問題はゴミの排出量が多い先進国の問題ばかりがピックアップされがち。しかし、実はゴミを分別する習慣がない発展途上国も大きな問題を抱えている。世界のいくつかの国には乱雑に積み上げられたゴミ山があり、そこには生ゴミから金属、果ては危険物に至るまで、様々なゴミがうすたかく積み上げられたままになっている。その環境は衛生的にも極めて劣悪で、また捨てられているものによっては危険も伴うために早急な改善が求められてきた。だが、抜本的な解決策が見つからず放置され続けているのが現状である。

▼その環境改善の切り札として期待されているのが同社が開発した新しい技術。それはあらゆるゴミを石炭のような燃料に変えられるというもので、家庭のゴミはもちろん、取り扱いが難しい医療産廃物などにも対応できるという。この技術があれば世界にいくつも存在しているゴミ山をなくすることができるのではと期待されているのだ。そしてさらにその燃料を使って電気を起こすことができれば――。まさにゴミが全く出ず、資源の無駄遣いなどがないクリーンな地球環境が築けるのではないだろうか。現在「世界を変えていく」という目標に向かってさらなる環境改善策を構築すべく日夜尽力している木村社長と吉川教授。まだまだ課題も多いと二人は語るが、エネルギーと希望に満ち溢れている二人なら、近い将来必ず目標を達成してくれるだろう。